

福島イノベーション・コースト構想に基づく 先端農林業ロボット研究開発事業 [新規]

【復旧・復興対策分95(0)百万円】

【うち復興庁計上分95(0)百万円】

対策のポイント

ロボット技術など先進的技術の開発等を進めることにより、浜通り地域において先進的な農林水産業を展開します。

<背景/課題>

- ・ 浜通り地域は、年間を通じて比較的温暖な気候、なだらかな山林、潮目の漁場が存在し、農林水産業の盛んな地域であったにもかかわらず、東日本大震災と津波被害によって大きな被害を被った。
- ・ 特に、避難指示区域周辺では、農畜産物の出荷制限、生産意欲の減退が進み、農林地の荒廃が懸念されるとともに、地域の農業が長期にわたり停滞している状況である。さらには、農業者を含む住民の多くも避難を続けている状況であり、浜通りの農林業を再生するにしても、人手や資材等の不足は深刻であり、その実現は容易ではない。
- ・ このような中、避難している農業者の帰還意欲や営農再開意欲を昂進させるとともに、限られた人的資源で営農を再開し、かつ収益を上げていくためには、浜通りの置かれた状況に対応しながら、これまでの生産現場の技術体系を大きく変える大幅な作業の省力化等を実現する先端技術の開発を推し進めることが緊要である。

政策目標

先端技術を用いた被災地の農業の復興

<主な内容>

- 超省力農業等の実現に向けた先端技術の研究開発
浜通り地域における農作業等の超省力化の実現に向けて、地域条件に適合しつつ運用可能な無人走行トラクター等の先端農林業ロボットの開発・改良等を推進します。

（ 補助率：定額
事業実施主体：民間団体等 ）

お問い合わせ先：

（ 農林水産技術会議事務局研究企画課

（ 03-3502-7406 ）

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けた先端農林業ロボットの研究開発

イノベーション・コースト構想における農林水産プロジェクトの目的

原子力災害で大きなハンディキャップを背負った地域だからこそ、日本農業のフロンティアを目指し、先端技術を取り入れた先進的な農林水産業を全国的に先駆けて実践し、農林水産業を復興・再生

○ トラクターの自動走行技術

- ・ロボットトラクターの無人走行試験を行う。大区画ほ場での試験区を設けた超省力技術の実証に加え、帰還困難区域・居住制限区域での無人での農地の保全管理への利用も検討
- ・農機メーカーのほか、地元の農業生産法人の協力を得て実施することを想定。



○ 農作業用アシストスーツ

地元ロボット企業と連携して農作業の労働負荷を軽減するアシストスーツの改良を行う。現在の試作機の試験結果を踏まえて、より農作業に適応したロボットとなるよう施策・改良等を行うことを想定。



○ 法面用除草ロボット

避難地域等における除染後ほ場や畦畔等の除草管理作業に活用できる除草ロボットの開発を行う。



○ 苗木植栽ロボット

復旧が進む海岸防災林の造成地において、苗木植栽ロボットの改良試験を行う。海岸特有の砂地・密植といった条件下での植栽作業に関する試験及び改良試作品の現地実証試験を行うことを想定。

